

河津桜に夢をのせて ～浦々をつなぐピンクの櫛～



大分県 津久見市
四浦を考える会／津久見市

1 社会資本の概要

大分県津久見市は、大分県の南東部に位置する海沿いの街で、豊後水道に面した四浦半島や長目半島等の海岸線は、日豊海岸国定公園に指定され、典型的なリアス式海岸の地形となっています。ここでは沿岸に迫るような急峻な山地や、僅かに残る海岸線に道路が整備され、半島へ向かう重要なアクセス道路として、地域住民にとっては欠かすことのできない社会資本の一つとなっています。



リアス式海岸の四浦半島

平成 17 年より、この道路際に、地域の方々によって河津桜が植樹され、満開を迎える 2 月には多くの方々が訪れるようになりました。平成 23 年 4 月の「つくみイルカ島」のオープン、また、平成 28 年 4 月に東九州道が北九州市から宮崎市まで繋がったことで、今では、広く県内外からの観光客が訪れるようになり、その数は確実に増加しています。



道路沿いに植樹された河津桜

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

津久見市の中でも高齢化や人口減少が著しい四浦地区では、平成 16 年、大分県を相次いで襲った 3 つの大型台風により、壊滅的な被害を受けました。あまりにも大きな被害であったため、地区の人たちは意気消沈しましたが、四浦地区の有志 18 名により「四浦を元気にしたい、賑やかさを取り戻したい」との思いから「四浦を考える会」が設立されました。会では、平成 17 年より、地域住民や企業、ボランティアなどの協力を得ながら、地区内の主要な道

路沿い等に河津桜の植樹を始め、平成 28 年度末現在、その数は 4600 本にのびります。地域住民が中心となって草刈や水遣りなどの維持管理を行ったり、地元の中学生在がふるさと教育として植樹を行うなど、活動を通じて地域間交流が生まれています。このような活動を地道に継続させた結果、河津桜の成長とともにその認知度は徐々に高まり、今では、四浦半島の春の風物詩として定着しています。



地域の復興への願いから始めた植樹活動



地元中学生へのふるさと教育

3 活動の成果や波及効果等

平成 24 年度より毎年行われている「豊後水道河津桜まつり」は、平成 29 年 2 月の開催で第 5 回を数え、今では来場者が 7 万人を超えるとともに、桜にちなんだ蒲鉾や饅頭などのお土産が登場するなど、津久見市の観光振興に貢献しています。

また、このような四浦地区での取り組みは市内各所に影響を与え、平成 28 年には、津久見市が「桜観光実行委員会」を設立し、他地区で開催されている「つくみ山桜まつり」との連携により、「河津桜から山桜、ソメイヨシノへと長期間桜観光ができるまちづくり」を目指すなど、四浦地区で始まった活動が、市全体の取り組みへと波及するまでになっています。



「豊後水道河津桜まつり」で披露された宗麟太鼓



桜にちなんだ様々な土産品



県内外から訪れる観光客

喜びの声



受賞者

四浦を考える会
会長 小谷 栄作

コメント

この度は、「手づくり郷土賞」を頂きありがとうございました。活動当初は、地域の高齢者から「自分たちが生きている間に花ひらくのだろうか」という自虐的な話もありましたが、地域の方々や多くのボランティアに支えられ、7 万人を超す観光客が来場するまでになりました。今後も、地域の発展のため全力で取り組みます。

活動内容

- ・河津桜の植樹及び維持管理活動
- ・豊後水道河津桜まつり等イベント運営

活動の経緯

平成 16 年 四浦を考える会の発足
平成 17 年 河津桜の植樹及び維持管理活動の開始
平成 25 年 第 1 回豊後水道河津桜まつり開催以降毎年開催

所在地

大分県津久見市四浦地区

活動主体及び連絡先

四浦を考える会
(0972-88-2721) ※功労者：小谷 栄作、甲斐 英宏

対象となる社会資本

県道四浦日代線、県道四浦港津井浦線、市道高浜線、市道田平線
※管理者：大分県、津久見市

